

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 特許出願公開

⑪ 公開特許公報(A)

平2-10429

⑫ Int. Cl.³

G 06 F 9/06
9/45

識別記号

4 3 0 E

庁内整理番号

7361-5B

⑬ 公開 平成2年(1990)1月16日

8724-5B

G 06 F 9/44

3 2 0 E

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全5頁)

⑭ 発明の名称 プログラム構造化処理方式

⑮ 特 願 昭63-161812

⑯ 出 願 昭63(1988)6月28日

⑰ 発 明 者 廣 島 郁 芳 兵庫県神戸市兵庫区和田崎町1丁目1番2号 三菱電機株式会社制御製作所内

⑱ 出 願 人 三菱電機株式会社 東京都千代田区丸の内2丁目2番3号

⑲ 代 理 人 弁理士 大岩 増雄 外2名

明 細 書

1. 発明の名称

プログラム構造化処理方式

2. 特許請求の範囲

ソースプログラム中に含まれるGO TO及びJUMP命令を除去するプログラム構造化処理方式において、ソースプログラムを入力し、その構造化テーブルを作成する構造化テーブル作成部、この構造化テーブル作成部で作成された構造化テーブルを構造化解析し、構造化に必要な情報を抽出する構造化解析部、この構造化解析部で抽出した情報及び上記構造化テーブル作成部で作成した構造化テーブルにより、上記GO TO及びJUMP命令を繰返し命令あるいはIF命令に変換した構造化された構造化テーブルを作成する構造化変換部、及びこの構造化変換部により作成された構造化テーブルを構造化されたソースプログラムに変換するソースプログラム変換部を備えたことを特徴とするプログラム構造化処理方式。

3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

この発明は、ソースプログラム中に存在するGO TO、JUMP命令を除去し、ソースプログラムを構造化されたプログラムに変換するプログラム構造化処理方式に関するものである。

〔従来の技術〕

一般にプログラム構造化の単純化や読解の容易さなどを向上するために構造化プログラミング技法が導入されるようになった。第5図は、構造化プログラムの一例を示したもので、第5図(a)は構造化される前のソースプログラムを示すものでGO TO命令を含んでいるが、第5図(b)は構造化された後のソースプログラムを示すものでGO TO文が除去されている。第5図(a)及び(b)のソースプログラムは全く同じ内容である。

従来このような構造化処理は、例えば第5図(a)～(c)に夫々示すような決まったパターンだけを自動的に構造化しており、パターンに当てはまらなければ構造化が行なわれず、人の手でソースプログラムを修正する等の処理を必要としていた。な

お、第6図において、 S_1 、 S_2 はプログラムの構造上1つにまとめることのできる行の集まりを表わす。

〔発明が解決しようとする課題〕

従来のプログラミング構造化処理方式では、特定のパターンのGOTO、jump命令だけの構造化が可能で、プログラムを全て自動的に構造化することができず、ソースプログラムの構造化に時間がかかるという課題があった。

この発明は、上記のような課題を解消するためになされたもので、ソースプログラム中に存在する全てのGOTO、jump命令を自動的に除去し、構造化されたプログラムに変換するプログラム構造化処理方式を得ることを目的とする。

〔課題を解決するための手段〕

この発明に係るプログラム構造化処理方式は、構造化のためにソースプログラムには存在しない変数を新たに生成し、その変数により、構造化を行なうようにしたものである。

〔作用〕

化情報であり、たとえば、何行目から何行目は1つのブロックとして扱えるといった情報やGOTO命令の場所等、構造化処理に必要な情報である。④は構造テーブル④と構造化情報④を入力とし、新たに変数を生成し、GOTO、jump命令を繰返し命令、IF命令等に変換する構造化変換部、④はこの構造化変換部により作成された構造化された構造テーブル、④はこの構造テーブルをソースプログラムに再生するソースプログラム変換部、④は構造化されたソースプログラムである。

各部の動作は前述したとおりだが、構造化変換部④の動作を第2図のフローチャートと第3図の構造化の実際の例に従って説明する。まず、構造テーブル作成部④によつて作成された構造テーブル④と構造解析部④によつて作成された構造化情報④を読み込む(ステップ1、以下ステップをSTと略す。)、この構造化処理方式ではGOTO文(命令)の飛び先きのラベルの数だけ変数が必要になるので、構造化情報④によりラベルの数と同じ数の変数を生成する(ST.2)。第3図④の①

この発明におけるプログラム構造化処理方式は、新たに生成した変数をIF文、WHILE文の条件式に使用し、また、ENDIF文、生成した変数への代入文、ENDWHILE文等を付加することによりGOTO、jump命令を全て除去し、プログラムの構造化を行なうようにしたものである。

〔発明の実施例〕

以下、この発明の一実施例を図について説明する。第1図において、①は入力対象のソースプログラム、②はソースプログラムを入力として構造化、つまり、DO文・IF文・GOTO文等が何行目にあり、プログラムがどのような順序で実行されるのかを表わすプログラムの流れの構造を抽出し構造テーブルを作成する構造テーブル作成部、③はこの構造テーブル作成部によつて作成された構造テーブル、④はこの構造テーブルを入力とし、検索することにより、構造テーブル④から構造化に必要な情報、例えば、GOTO文の個数や構造化に必要なブロックの制御構造等を抽出する構造解析部、⑤はこの構造解析部より抽出された構造

に変数が4個生成されている。ソースプログラムの構造を独立して取り扱えるいくつかのブロックに分け、構造化が必要なブロックを選択する(ST.3)。構造化が必要なブロックの構造テーブルを1つずつ処理する(ST.4)。処理中に構造化が必要なGOTO文が出てきたかどうかを判定する(ST.5)。GOTO文が出現した場合、その時の構造化情報に従つてIF文、代入文、ENDIF文、ENDDO文等に変換する(ST.6)。第3図の②にその例を示している。処理中にGOTOの飛び先きのラベルが出てきたかどうかを判定する(ST.7)。GOTO飛び先きラベルが出現した場合、その時の構造化情報に従つて無変換、WHILE文代入文、ENDIF文等に変換する(ST.8)。第3図の③にその例を示している。この処理を1ブロックの全ての構造テーブルについて行なわれたか判定し、まだ1ブロックの処理が終了していなければ元に戻り、終了していれば、次のブロックの処理を行なう(ST.9)、つぎにこの処理が全ブロックについて行なわれたか判定し、

まだブロックが残っているなら繰り返し処理し、残っていなければ最後の処理に進む (ST10)。最後に、前記処理で新しく構造化された構造化テーブルを出力する (ST11)。

なお、上記実施例では新たに変数を生成しGOTO、jump命令を除去する方法を示したが、この処理を行う前に従来から使われてきた決まったパターンのGOTO文をブロックIF文等に変換する処理を行つてもよく、その後本発明の処理を行うと生成ラベル数が減るなどの効果が得られる。

また、生成ラベル個数を1個として、条件式の内容等を変えることによりソースプログラムを構造化することができる。その実際の例を第4図に示す。なお、第4図には変換上WHILE()～ENDDO文ではなく、DO～WHILE()文を使用している。

〔発明の効果〕

以上のように、この発明によれば全てのGOTO、jump命令等を新たな変数を生成することにより除去できるので構造化処理が全て自動に行える

という効果がある。

4. 図面の簡単な説明

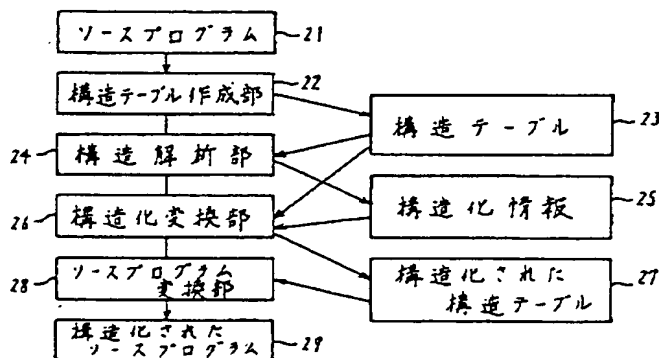
第1図はこの発明の一実施例によるブロック図、第2図はこの発明の動作を示す流れ図、第3図はこの発明における構造化の実際の例、第4図は生成ラベル個数を1個とした場合の構造化の実施例、第5図は構造化プログラミングの例、第6図は決まったパターンの構造化の例である。

図において、21はソースプログラム、22は構造化テーブル作成部、24は構造化解析部、26は構造化変換部、28はソースプログラム変換部である。

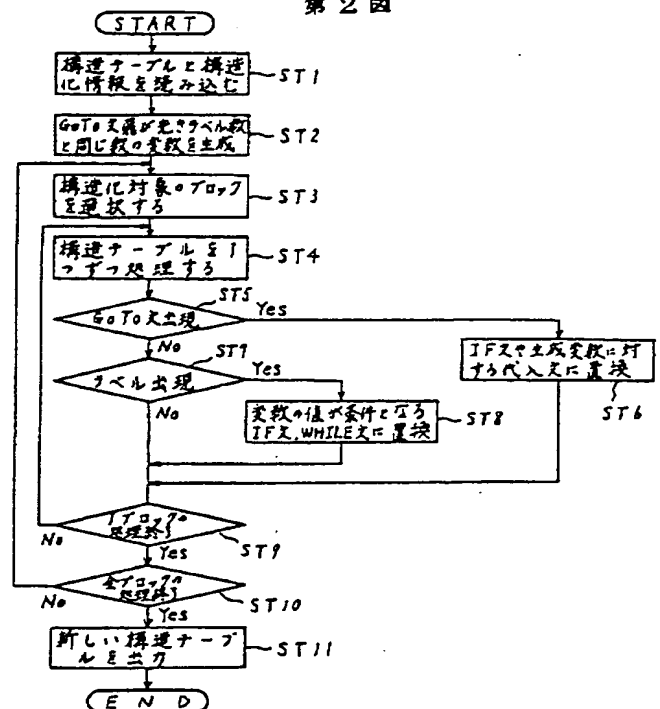
なお、各図中、同一符号は同一あるいは相当部分を示すものとする。

代理人 大 岩 増 雄

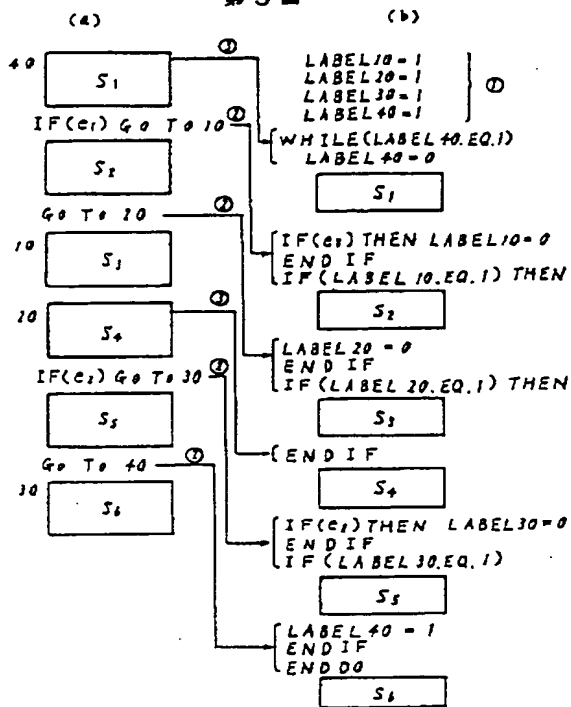
第 1 図



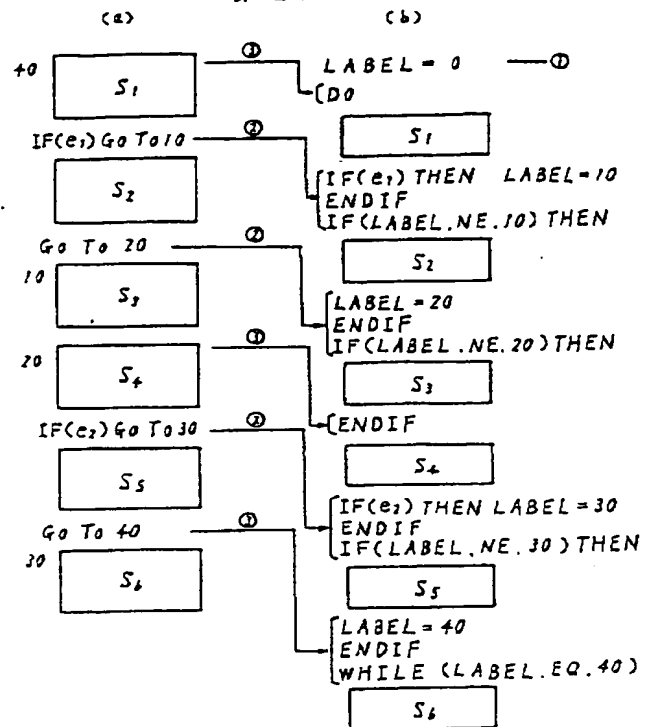
第 2 図



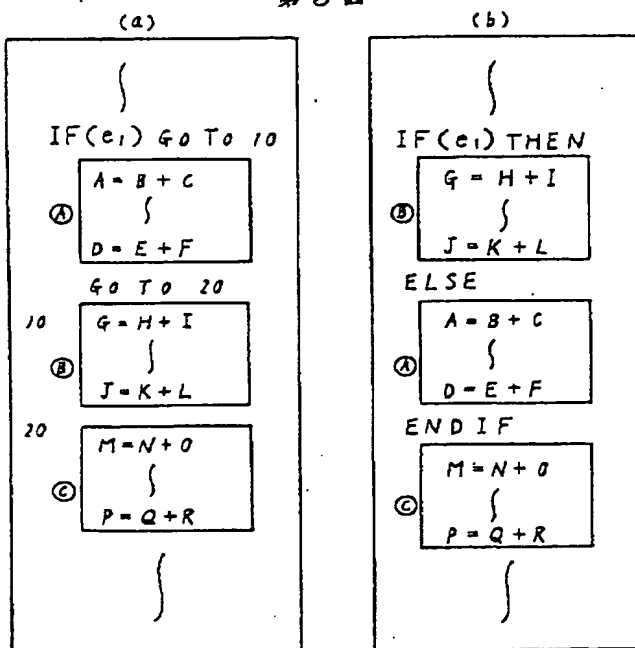
第3圖



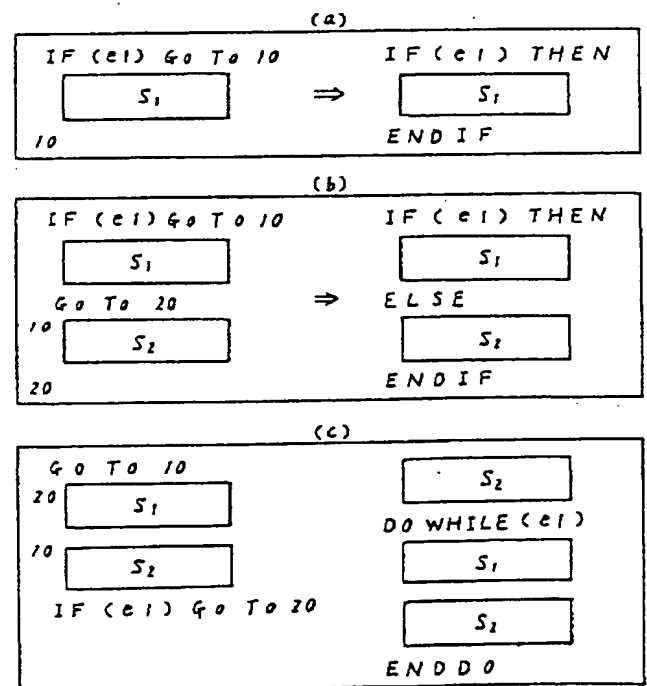
第4圖



第5圖



第6圖



手続補正書(自発)

昭和 8 年 10 月 3 日



特許庁長官殿

1. 事件の表示 特願昭 63-161812 号

2. 発明の名称
プログラム構造化処理方式

3. 補正をする者

事件との関係 特許出願人
住 所 東京都千代田区丸の内二丁目2番3号
名 称 (601) 三菱電機株式会社
代表者 志 岐 守 哉

4. 代 理 人

住 所 東京都千代田区丸の内二丁目2番3号
三菱電機株式会社内
氏 名 (7375) 弁理士 大 岩 増 雄
(連絡先 03(213) 3421 特許部)



5. 補正の対象

(1) 明細書の「発明の詳細な説明」の欄。

(2) 図 面

6. 補正の内容

(1) 明細書第3頁第3行に「わす。」とあるのを「わし、第5図④、⑤、⑥と同じ意味を持つ。」と訂正する。

(2) 同書第5頁第13行に「説明する。」とある後に「なお、第3図で(a)は構造化される前のプログラム、(b)は構造化されたプログラムを表わす。」を挿入する。

(3) 同書第7頁第11行に「また、生成ラベル個数」とあるのを「また、上記例では生成変数の個数がGOTO文のラベルの個数だけ必要であつたが、生成変数の個数」と訂正する。

(4) 図面の第2図を別紙のとおり訂正する。

7. 添付書類の目録

(1) 図面(第2図)

1 通

以 上

